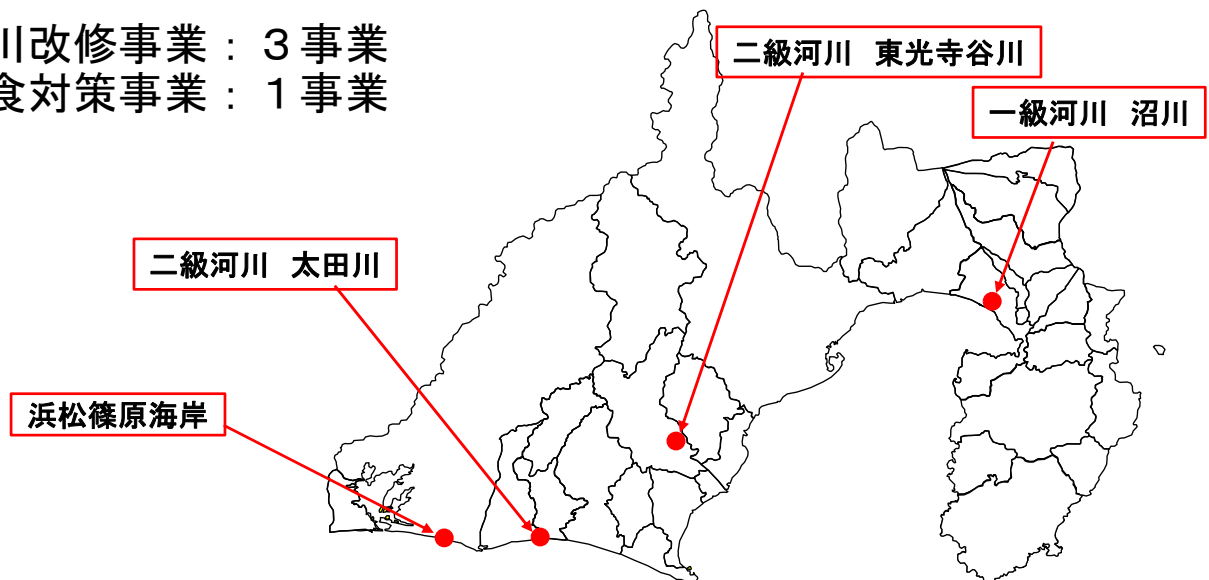


番号	4	令和8年度公共事業再評価調書					担当課名	河川海岸整備課																															
事業名	総合流域防災事業					事業主体	静岡県																																
箇所名	にきゅうかせんとうこうじやかわ 二級河川東光寺谷川					関係市町	島田市、藤枝市																																
事業採択年度	令和4年度		計画期間	令和4年度～令和23年度																																			
用地着手年度	令和4年度		工事着手年度	令和4年度																																			
再評価理由※	事業着手(R4)後5年が経過																																						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R6年度	R7年度	R8年度見込	計																																	
	4,534		260	49	70	380																																	
事業概要	(1)事業目的 河川改修により、河川整備計画に位置付けられた昭和57年年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、東光寺谷川流域の浸水被害の解消を図る。 (2)事業内容 施工延長：2,315 m 河道拡幅工：2,315 m 取水堰：5箇所 橋梁：10橋 伏せ越し：1箇所																																						
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 当該地区は、過去より浸水被害が発生しており、地元から河川改修に対し強い要望がある。また、近年流域内において、六合駅周辺の宅地化の進行がみられ、水害が発生した場合の危険度は増しており、当該事業に対する期待度は極めて高い。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和8年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>38.9</td><td>56.2</td><td>69.3</td><td>192.4%</td></tr></table> ・総便益 (B) 1,121.3 億円 (便益：1120.3億円、残存価値：1.0億円) ・総費用 (C) 28.8 億円 (建設費：25.9億円、維持管理費：2.9億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・住民の精神的負担の軽減と安心感の向上 ・地域経済と社会活動の安定 (3)事業の進捗状況 (令和8年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>8.4%</td><td colspan="2">(380 百万円 / 4,534 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>護岸工</td><td>3.9%</td><td colspan="2">(90 m / 2,315 m)</td></tr><tr><td></td><td></td><td colspan="2">(m / m)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>2.4%</td><td colspan="2">(54 百万円 / 2,250 百万円)</td></tr></table> 評価 継続が妥当							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	38.9	56.2	69.3	192.4%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		8.4%	(380 百万円 / 4,534 百万円)		事業量	護岸工	3.9%	(90 m / 2,315 m)				(m / m)		用地取得		2.4%	(54 百万円 / 2,250 百万円)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																				
38.9	56.2	69.3	192.4%																																				
区 分		進捗率	内 訳																																				
事業費		8.4%	(380 百万円 / 4,534 百万円)																																				
事業量	護岸工	3.9%	(90 m / 2,315 m)																																				
			(m / m)																																				
用地取得		2.4%	(54 百万円 / 2,250 百万円)																																				
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 令和5年度に大日橋に着手し、令和9年度に竣工する予定である。大日橋の竣工後は、引き続き上流の護岸整備及び橋梁の架替えを実施し、令和23年度までに整備を完了させる予定である。事業は順調に進捗し、費用対効果も認められている。また、地域住民の改修への期待が大きいため、事業を継続する。 評価 継続が妥当																																						
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 護岸整備において、工事で発生する建設発生土は、近隣の公共事業に利用するなど、他事業と連携しコスト削減に努める。また、橋梁の架替えについては、道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討するとともに、コスト削減に努める。																																						
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を【 継続 】する。 (2)理由 事業は順調に進捗し、費用対効果も認められており、地域住民の改修への期待が大きいため、事業を継続する。																																						

河川改修事業：3事業
浸食対策事業：1事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川東光寺谷川	
2	河川改修事業	二級河川太田川（下流工区）	○
3	河川改修事業	一級河川沼川	
4	浸食対策事業	浜松篠原海岸	

交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 東光寺谷川位置図

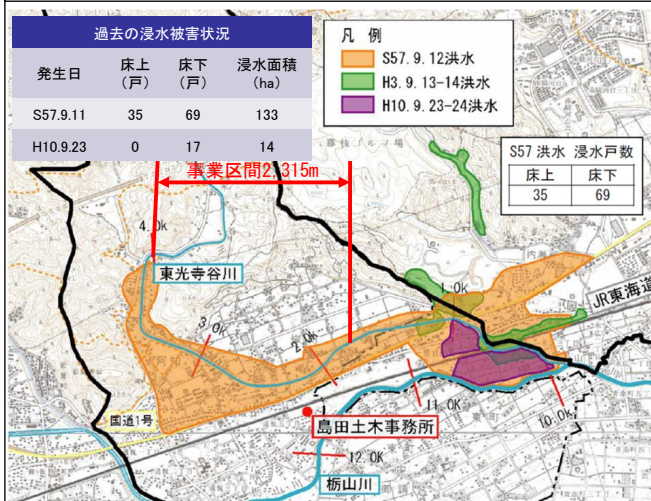
2



2. 事業概要

3

詳細位置図



写真等



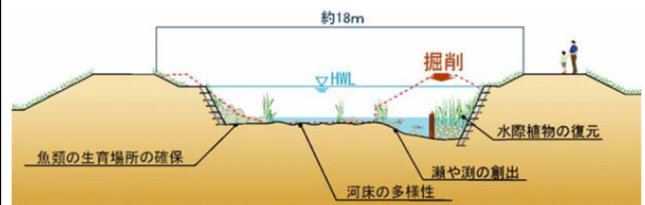
事業目的

年超過確率1/5の規模(62mm/h、357mm/24h)の洪水(1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/5(20%)である)を安全に流下させ、家屋浸水被害を〔概ね〕解消する。等

事業内容

- ・計画期間 令和4年～令和23年
- ・事業内容 施工延長 2,315m
河道拡幅工 2,315m
橋梁 10橋 取水堰 5箇所
伏せ越し 1箇所
- ・全体事業費 45億円

整備イメージ

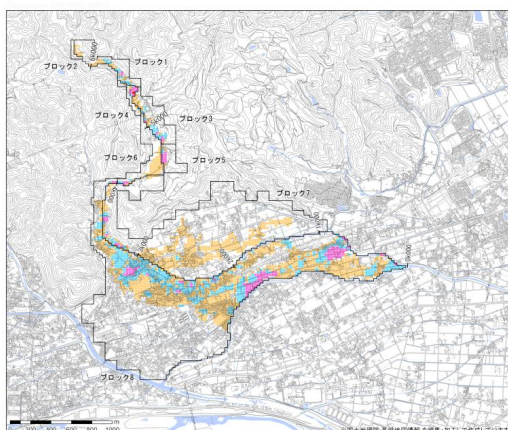


3. 事業の必要性（事業の効果）

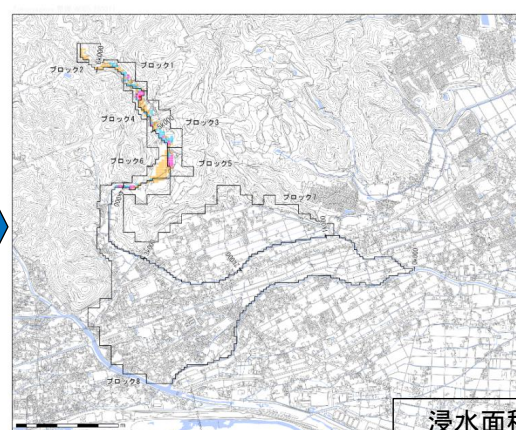
4

【整備目標規模(年超過確率1/5)洪水による氾濫シミュレーション結果】

整備前



整備後



本事業を実施することにより
東光寺谷川流域の浸水被害が低減される

$$\text{費用便益比 (B/C)} = \frac{\text{被害軽減便益} + \text{施設の残存価値}}{\text{事業費} + \text{維持管理費}}$$

総費用（C）＝2,881百万円 ※

事業費： 2,590百万円

維持管理費： 290百万円

総便益（B）＝112,134百万円 ※

被害軽減便益： 112,038百万円

施設の残存価値：97百万円

費用便益比（B/C）＝38.93

※令和8年換算価値

4. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

区 分	前回(R4)	今回(R8)	主な変更理由
①計画期間	R4～R23	R4～R23 (±0年)	・変更なし
②全体事業費	4, 534百万円	4, 534百万円 (±0百万円)	・変更なし

5. 今後の事業進捗の見込み

7

- 令和5年度に大日橋に着手し、令和9年に竣工する予定である。大日橋の竣工後は、引き続き上流の煎餅屋橋までの護岸整備及び橋梁の架替えを実施し、令和23年度までに整備を完了させる予定である。

6. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 【河道掘削】
 - ・ 工事発生土は、近隣の公共事業に利用するなど、他事業と連携しコスト縮減に努める。
- 【橋梁架替】
 - ・ 道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討し、コスト縮減に努める。

7. 対応方針(案)

8

- 本事業は、東光寺谷川流域の治水安全度を向上させ、浸水被害の解消を図るものである。
- 費用対効果も見込まれ、住民の改修への期待は非常に大きく、地域の安全・安心に寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。



費用対効果は認められており、地域住民の
改修への期待が大きいため、

事業を継続する。